

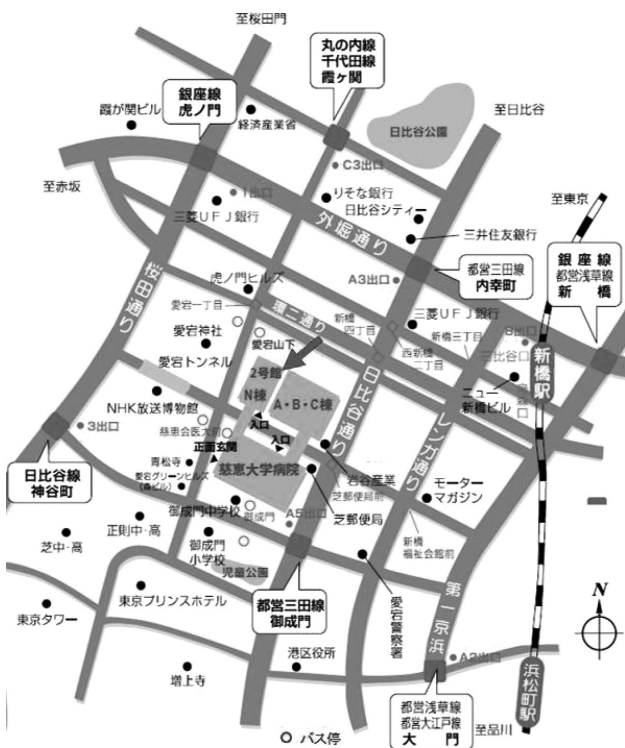
# 第714回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

**日 時： 2026年6月13日(土) 午後2時00分**

**開催会場： 東京慈恵会医科大学 2号館 1階講堂**

\*講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	小児科領域講習 1 単位 (iii 貼付用) 学術集会参加単位 (iv-B 貼付用)	*単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要 (60 分)



## 【会場アクセス】

- 都営三田線 御成門駅 (A5 出口) より徒歩 3 分
  - 地下鉄 日比谷線 神谷町駅 (3 出口) より徒歩 7 分
  - 地下鉄 銀座線 虎ノ門駅 (1 出口) より徒歩 10 分
  - JR・地下鉄 新橋駅 (烏森口) より徒歩約 12 分
  - JR 浜松町駅 (北口) より徒歩 15 分
- 東京慈恵会医科大学 2号館講堂 (1階)  
東京都港区西新橋 3-25-8  
左図 N 棟入口よりお入りください

## 【東京都地方会】

会 長 大石 公彦 (東京慈恵会医科大学小児科主任教授)  
主幹校 東京慈恵会医科大学小児科 担当：小林 正久  
連絡先 jpstokyo-office@umin.ac.jp  
\*講話会中の緊急のご連絡は会場 070-3914-1463 まで

東京都地方会 HP : <https://jpeds-tokyo.com/>



# 第 714 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 昭和医科大学江東豊洲病院こどもセンター 阿部 祥英》

## 一般演題 (1) 14:00 - 14:40 座長 磯島 豪 (虎ノ門病院 小児科)

### 1) 適応外の成長ホルモン治療後に神経性やせ症の診断に至った 1 例

○南部 志帆、中村 俊一郎、阿久津 朱伽、松村 誠紀、馬場 徹人、鳴海 覚志

(慶應義塾大学医学部 小児科)

14 歳女子。-3.0SD の低身長に対し内分泌学的評価なく自費で 2 年間成長ホルモン (GH) 療法が行われていた。一時的に身長成長率は上昇したが体重増加はなく、BMI は -1.6SD から -4.5SD へ低下した。やせ進行を契機に当院を受診し神経性やせ症と診断され、入院加療を要した。本症例は適応外 GH 療法が神経性やせ症の診断を遅らせた可能性を示唆し、今後も適切な評価を伴わない適応外 GH 治療の拡大が危惧される。

### 2) 尿道下裂を契機に新規 *DHX37* 遺伝子多型を同定した双胎例

○須磨 葉月、白川 詩織、鈴木 友梨、伊藤 佳史、岡本 健太郎、高澤 啓、高木 正稔

(東京科学大学病院 小児科)

日齢 0 男児。二絨毛膜二羊膜双胎で、出生時に両児とも尿道下裂を認めた。胎児期・周産期歴、家族歴に特記事項はなかった。第 1 子は二分陰囊も認め、Quigley 分類は第 1 子・第 2 子それぞれ 4 度・3 度であった。遺伝学的検査にて、両者に母由来の *DHX37* 遺伝子新規多型を同定した。*DHX37* 遺伝子は精巣退縮症候群、46, XY 性分化疾患の原因遺伝子として報告されている。本症例について文献的考察を加えて報告する。

### 3) 繰り返す咯血を契機に診断した孤立性片側肺静脈閉鎖症の 1 例

○田中 健一、木村 寛太郎、高橋 誉弘、飯坂 建太、佐藤 恵也、佐藤 浩之、松井 こと子、  
原田 真菜、福永 英生、秋元 かつみ、東海林 宏道

(順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科)

6 歳女児。乳児期より下気道感染を反復し、4 歳時に咳嗽を契機に手掌大の咯血を認め、その後も半年ごとに再発した。造影 CT で右肺容積低下、右肺動脈低形成および右肺静脈描出不良を認めた。肺血流シンチグラフィで右肺血流欠損、心臓カテーテル検査で右肺静脈還流を認めず、孤立性片側肺静脈閉鎖症と診断した。本疾患は稀であるが、小児の反復咯血における重要な鑑別疾患の 1 つであり、早期診断の重要性を踏まえ報告する。

### 4) 新生児期の前眼部白濁から診断に至った Peters 異常の 1 例

○杉原 諄哉<sup>1)</sup>、橋本 愛子<sup>1)</sup>、三宅 志歩<sup>2)</sup>、中元 兼二<sup>2)</sup>、渡瀬 絵里加<sup>1)</sup>、泉田 健介<sup>1)</sup>、  
石井 龍<sup>1)</sup>、渡邊 誠<sup>1)</sup>、宮村 能子<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 小児科、<sup>2)</sup> 同 眼科)

日齢 0 新生児。在胎 41 週 1 日で出生し、呼吸障害から CPAP で入院管理を行った。心臓超音波検査で心室中隔欠損症を認めた。開眼時の前眼部白濁を認め、眼科診察で角膜中央部の混濁所見から Peters 異常と診断した。出生後早期では眼球診察が困難であり、早期介入を要する先天白内障などと鑑別を要することから、眼科との連携が不可欠である。先天性心疾患を合併し、Peters 異常の診断に至った 1 例を報告する。

5) 10p15.3 欠失および 10p15.3-p12.1 重複を伴う先天性サイトメガロウイルス感染症

○柘植 朋子<sup>1)</sup>、島袋 林秀<sup>1)</sup>、堀川 美和子<sup>1)</sup>、蘇 哲民<sup>2)</sup>、黒澤 健司<sup>2)</sup>、窪田 満<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> 国立成育医療研究センター 総合診療部、<sup>2)</sup> 同 遺伝診療科)

2 か月女児。在胎 38 週 6 日、体重 1801g で出生した。出生後、先天性サイトメガロウイルス (CMV) 感染症と診断し、バルガンシクロビルを開始した。一般病棟転棟時、両手 overlapping fingers など先天性 CMV 感染症では説明できない形態異常を認め、マイクロアレイ染色体検査を施行したところ、10p15.3 の 1.88Mb 欠失と 10p15.3p12.1 の 27Mb 重複を認めた。原疾患で説明が難しい身体所見を認めた場合、遺伝学的異常を考慮することも重要である。

6) 気管支喘息既往のある児が鑄型気管支炎を発症し呼吸器不全に至った 1 例

○田川 杏子、南 早織、高橋 諒、新村 啓、亀井 優、長谷川 里奈、笹本 武明、大野 幸子、赤松 信子、山崎 崇志、山中 岳

(東京医科大学病院 小児科・思春期科)

11 歳女児。気管支喘息の既往があり、インフルエンザ感染に伴う呼吸不全で入院した。感染による気管支喘息の急性増悪を疑い治療を開始したが急速に呼吸状態が悪化し、第 2 病日より人工呼吸器管理を要した。胸部画像検査で進行する無気肺があり、気管支鏡検査で樹枝状の粘液栓を認めたため鑄型気管支炎と診断し、摘出後改善した。気管支喘息は鑄型気管支炎の発症リスクとなるため、呼吸障害の原因を慎重に鑑別する事が重要である。

7) *Morganella morganii* による硬膜下膿瘍の 1 例

○高見澤 恵理佳<sup>1)</sup>、坂口 晴英<sup>1)</sup>、新村 南<sup>1)</sup>、角皆 季樹<sup>1)</sup>、廣津 竜也<sup>2)</sup>、増本 愛<sup>2)</sup>、野中 雄一郎<sup>2)</sup>、大石 公彦<sup>1)</sup>

(<sup>1)</sup> 東京慈恵会医科大学附属病院 小児科、<sup>2)</sup> 同 脳神経外科)

1 歳男児。右硬膜下血腫の既往あり。有熱性けいれん群発のため入院し、髄液検査で細胞数増多を認めたため、抗菌薬治療を開始した。血液・髄液培養から *Morganella morganii* が検出された。抗菌薬治療下においても解熱せず、画像検査の結果、右硬膜下膿瘍を認めたため、穿頭ドレナージ術を実施し、解熱を得られた。*Morganella morganii* による硬膜下膿瘍は極めて稀であり、報告する。

8) 無菌性髄膜炎に続発した不全型川崎病の乳児例

○小川 亜梨紗、島 はるか、大根 麻梨奈、浅山 真史、滝鼻 理那、金澤 建、松橋 一彦、阿部 祥英

(昭和医科大学江東豊洲病院 こどもセンター)

2 か月乳児。発熱を主訴に当院を紹介され、入院した。大泉門膨隆、項部硬直、髄液細胞数の増加を認め、入院 4 日目に無菌性髄膜炎と診断した。発熱は持続し、入院 6 日目の心臓超音波検査で右冠動脈の拡張 (Z スコア +4.35) を認め、不全型川崎病と診断した。免疫グロブリン大量療法、アスピリン投与で解熱し、冠動脈病変も改善した。低月齢乳児では主要症状が発熱のみでも不全型川崎病の可能性があり、診断の際に注意を要する。

感染症だより 15:30 – 15:45 (講演: 15分)

講師 森野 紗衣子 (国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 予防接種研究部)

共催セミナー 15:45 – 16:25 (講演: 40分)

「PKU 診療アップデート～基礎理解と新たな治療選択肢～」

座長 石毛 美夏 (日本大学医学部小児科学系小児科学分野)

講師 西田 ひかる (東京慈恵会医科大学小児科学講座)

フェニルケトン尿症 (PKU) は、新生児マススクリーニングで発見される代表的な先天代謝異常症である。早期診断と適切な食事療法による管理により、予後は大きく改善する。本講演では、PKU の病態、診断、食事療法など基本について概説する。さらに、生涯にわたる治療が必要であることから、患者負担の軽減や生活の質の向上が課題となる中、近年進展している新たな治療法のうち、BH4 前駆体制剤について詳しく解説する。

共催: PTC セラピューティクス株式会社

\* \* 休 憩 16:25 – 16:35 \* \*

教育講演 16:35 – 17:40 (講演: 60分 + 質疑応答: 5分) 小児科領域講習 1単位

「血液・腫瘍疾患を疑うとき－何を考える? 急ぐのはどんなとき?」

座長 大石 公彦 (東京慈恵会医科大学小児科学講座)

講師 宮村 能子 (日本医科大学小児科学講座)

小児血液・腫瘍疾患はまれであるが、その多くは発熱や倦怠感、腹部膨満、リンパ節腫脹など日常診療で比較的好くみられる非特異的な症状で発症する。全身状態を見極め、確実に精査・鑑別診断を実施し方針をたてることが重要だが、一方で、緊急的な初期対応を要する「oncologic emergency」という状況も存在する。本講演では、血液・腫瘍疾患を疑う契機となる症状や所見、対応を整理するとともに、「急いで対応すべきとき」を見極める視点について解説したい。

## ◆ 2026 年度 講話会予定（会場開催のみ） ◆

### ■ 講話会予定

講話会	日程	会場	備考
第 715 回	2026 年 7 月 11 日（土）	アットビジネスセンター 八重洲通	※演題締め切りしました
第 716 回	2026 年 9 月 12 日（土）		※演題締め切り 2026 年 6 月 20 日
第 717 回	2026 年 10 月 10 日（土）		※演題締め切り 2026 年 8 月 20 日
第 718 回	2026 年 12 月 12 日（土）		※演題締め切り 2026 年 9 月 20 日
第 719 回	2027 年 1 月 9 日（土）		※演題締め切り 2026 年 11 月 20 日
第 720 回	2027 年 2 月 13 日（土）		※演題締め切り 2026 年 12 月 20 日
第 721 回	2027 年 3 月 13 日（土）		※演題締め切り 2027 年 1 月 20 日

\* 4, 5, 8, 11 月は休会

※申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。  
その場合事務局よりご連絡致します。

### 演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpeds-tokyo.com/>



### ■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を 2026 年度は年間 6 回の開催が予定されております。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会場	申込開始時期
2026 年 6 月 7 日（日）	東京慈恵会医科大学	締め切りしました
2026 年 7 月 18 日（土）	慶應義塾大学	締め切りしました
2026 年 9 月 5 日（土）	帝京大学	締め切りしました
2026 年 12 月 6 日（日）	日本大学	2026 年 8 月初旬 募集開始
2027 年 1 月 24 日（日）	東京大学	2026 年 9 月下旬 募集開始
2027 年 2 月 7 日（日）	国立成育医療研究センター	2026 年 10 月初旬 募集開始

募集人数：12 名 ※ 最少催行人数 8 名

申し込み先：日本小児科学会 HP ※詳細についても 小児科学会 HP にてご確認ください  
[https://www.jpeds.or.jp/modulesactivity/index.php?content\\_id=221](https://www.jpeds.or.jp/modulesactivity/index.php?content_id=221)

## ◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

### 【2026 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となっております。

2026 年度会費納入のお知らせを 2026 年 4 月 1 日以降メールおよびホームページにてご案内いたしました。2026 年度会費及び 2025 年度・2024 年度 会費未納の方は【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

\* 3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

\* 会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

\* 講話会当日、会場受付にて年会費をお支払いいただくことも可能です。お気軽にお声かけください。

### 【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

### 【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

## ◆ 関連学会の講演情報 ◆

### 第 132 回 東京小児科医会学術講演会のご案内

ハイブリッド開催、オンデマンドのみ小児科領域講習専門医 2 単位取得可能（申請中）

開催 日 程：令和 8 年 7 月 12 日（日）13：00～17：00

開催 場 所：東京医科大学病院 教育研究棟（自主自学館）3 階大教室

オンデマンド配信期間：8 月 1 日（土）～8 月 23 日（日）

オンデマンド申込期間：7 月 13 日（月）～8 月 14 日（金）

クレジットカード決済の方に限り 8 月 20 日（木）まで受け付けします。

詳 細：東京小児科医会ホームページ <https://tokyo-pediatrics.org/>

【主幹校（会長校）】東京慈恵会医科大学小児科

【運営事務局】合同会社新生児小児研究会

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ [jpstokyo-office@umin.ac.jp](mailto:jpstokyo-office@umin.ac.jp)

【東京都地方会 HP】

<https://jpedts-tokyo.com/>

